



能登やさしいこめづくり情報

水管理・防除・能登ひかり穂肥編

令和8年7月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会

出穂期予想 能登ひかり: **7月18日** (平年より6日早い)

今後の対策 3つのポイント

- 1 中干し終了から刈り取り直前までの**飽水管理** ⇒ 1 参照
- 2 斑点米カメムシに対する出穂始からの**3回防除の徹底** ⇒ 2 参照
- 3 **穂肥**の適期・適量施用 ⇒ 4 参照

1 水管理について

今年の夏も高温となる恐れ！
中干し終了後の飽水管理で稲体の活力を維持しましょう。

北陸地方の向こう1カ月の予報では、高温・少雨となる見込みです。高温障害を避けるため、中干し終了後は**間断通水による飽水管理**に移行し、稲体に適度な水と酸素を供給して登熟環境の向上に努めましょう。さらに、**水不足**が懸念されるため、下記対策を徹底しましょう。



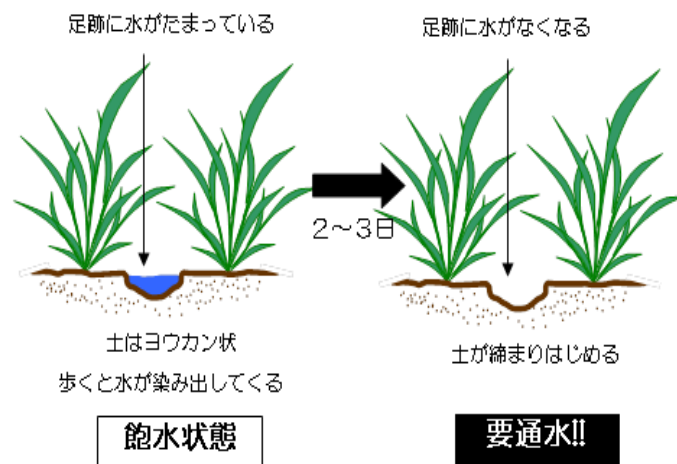
中干し後からの「**飽水管理**」の徹底

登熟を向上させ、未熟粒を出さないためには、**根を健全に保つことが重要**です。

根の活力維持には、適期の中干しに加え、中干し以降の**水管理が大きく影響**します。

幼穂形成期（早生6月末、中生7月上旬）以降は新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し**飽水状態**（右図を参照）を保つことで、根の活力維持を図りましょう。

【飽水管理とは…】
ほ場表面に水はないが、足を踏み入れると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理



水不足への対策チェックリスト

☐ ほ場に漏水箇所がないか ☐ 水源の水量状態はどうか

☐ 効率的な入水をするため溝切りはできているか

上記項目のチェックと**地域ぐるみの計画的な水利用**に取り組みましょう！

2 斑点米の発生防止対策について

飛翔性のカメムシは**今年も多発！！**

- ・斑点米カメムシの生息調査（奥能登地区2市2町・34地点、7/1実施）の結果、1地点あたり7.7頭と**平年の約1.3倍と多い生息数であり、斑点米の多発が懸念されます。**



発生防止対策

①草刈り

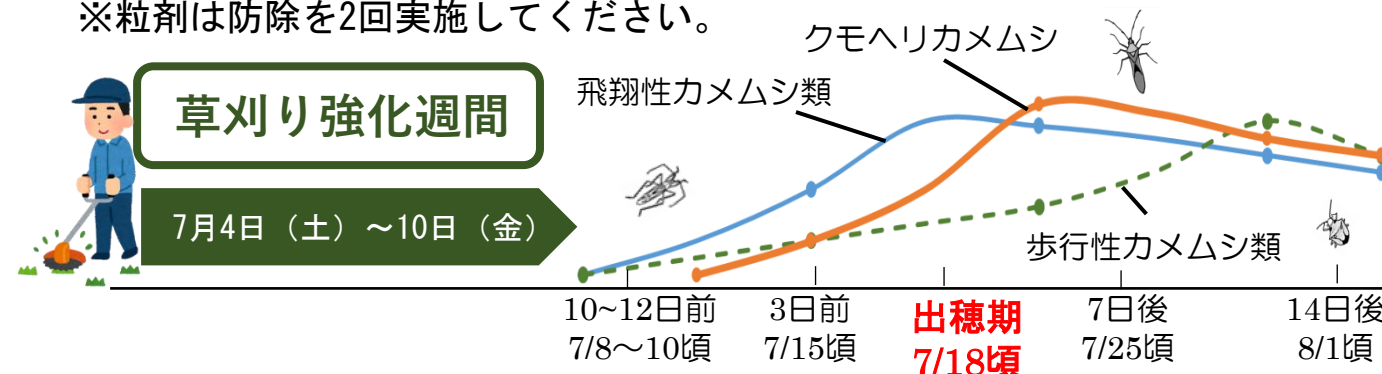
斑点米カメムシの生息数を減らすため、**7月4(土)～10日(金)の一斉草刈り強化週間**に仕上げ除草を実施しましょう。

②適期防除

カメムシ類は稲の出穂に合わせてほ場へ侵入するため、**適期に防除し、カメムシ被害を防ぎましょう。**

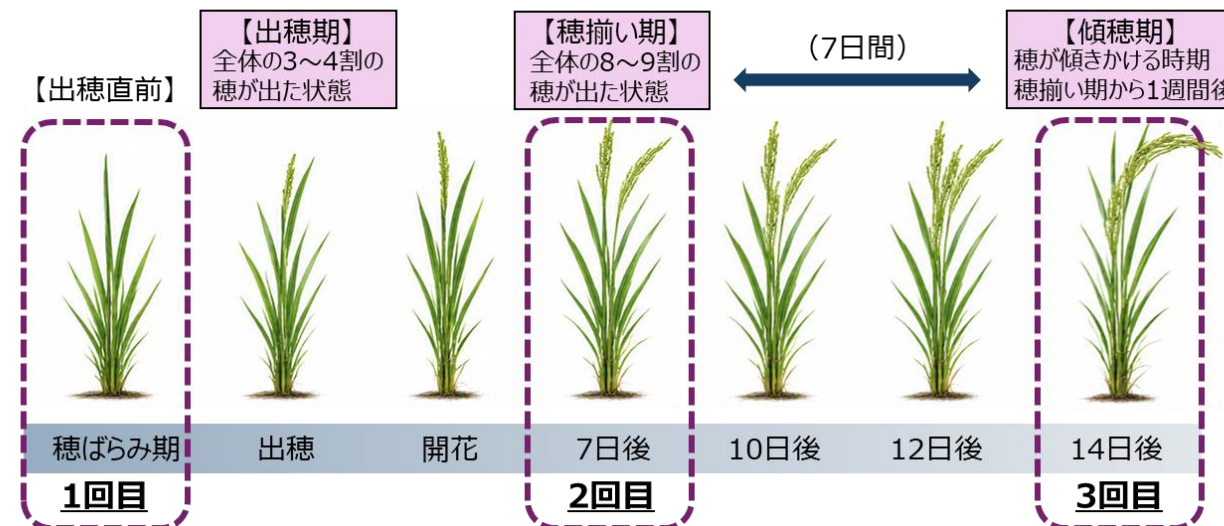
※カメムシの種類によって侵入時期が異なるので、**3回防除**する必要があります。

※粒剤は防除を2回実施してください。



除草期間		薬剤防除期間		
粉剤体系		1回目	2回目	3回目
液剤体系		1回目	2回目	3回目
粒剤体系	1回目	2回目		

<防除時期の目安>



防除体系についての詳細は裏面に記載

＜粉剤・液剤体系＞（7月18日に出穂した場合） ※（ ）内の数字は成分回数を表す

防除時期	出穂直前【1回目】 （7/14～16日頃）	穂揃い期【2回目】 （7/25～27日頃）	傾穂期【3回目】 （8/1～4日頃）
粉剤体系	ビームトレモンセレン粉剤DL（3） 4kg/10a（収穫21日前まで）	ラブサイドキラップ粉剤DL（2） 4kg/10a（収穫14日前まで）	キラップ粉剤DL（1） 4kg/10a（収穫14日前まで）
対象病害虫	いもち病、紋枯病 カメムシ類、ウンカ類	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類
液剤体系	ビームエイトレボンゾル（2） 650倍（収穫14日前まで） ＋ バリダシン液剤5（0） 1000倍（収穫14日前まで）	キラップフロアブル（1） 1000～2000倍 （収穫14日前まで）	キラップフロアブル（1） 1000～2000倍 （収穫14日前まで）
	使用液量：100L/10a	使用液量：60～200L/10a	使用液量：60～200L/10a
対象病害虫	いもち病、紋枯病 カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類

＜粒剤体系＞

防除時期	出穂10日前【1回目】 （6/28～7/8日頃）	傾穂期【2回目】 （7/21～7/28日頃）
粒剤体系	ワイドパンチ豆つぶ（2） 250g/10a（収穫35日前まで）	キラップ粒剤（1） 3kg/10a（収穫14日前まで）
対象病害虫	いもち病、紋枯病 カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類



※粉剤は防除効果を高めるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3～4時間は降雨がない日に散布する。

※農薬のラベルを再度確認したうえで、適正な使用に努めましょう。

紋枯病に要注意！

病害虫発生予報によると、気温が高くなることから紋枯病の発生はやや多と予想されています。

特に、前年に多発したほ場や茎数の多いほ場では多発する可能性があるため、注意しましょう。

1回目の基幹防除を徹底して行って下さい！

紋枯病（もんがれびょう）

幼穂形成期(6月下旬-7月上旬)ごろから発生する。病斑は周縁部が黒褐色で内部が灰色。病斑は下位から上位へと進展する。穂が枯死すると収量、品質低下の原因となる。



3 随時防除の実施

病害虫名	薬 剤 名	成分数	散布量 (10a当り)	使用 時 期
稻こうじ病、墨黒穂病	Zボルドー粉剤DL	0	3～4kg	出穂10日前まで ※常発地では必須散布
いもち病、ごま葉枯病	ブラシン粉剤DL	2	3～4kg	収穫7日前まで
紋枯病	モンセレン粉剤DL	1	3～4kg	収穫21日前まで

4 穂肥について

穂肥の「適期」「適量」施用で未熟粒の発生防止!!

「能登ひかり」穂肥時期目安

分施体系の場合

肥料名	回	施用時期(出穂前日数)	10 a 当りの施用量		葉色	出穂日＊ (予想)	施用基準
			生育過剰	標準			
追 肥 550号	1回目	6月28日頃(20日前)	0～7kg	10kg	4.0	7月18日	幼穂長 3～5mm
	2回目	7月8日頃(10日前)	15～20kg		—		葉耳間長 ±0mm

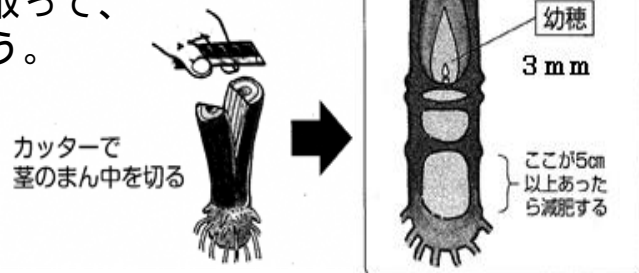
※基肥一発肥料（BB早生一発くんDX28）を施用したほ場では、原則、穂肥を施用する必要はありません。

※生育過剰（茎数が多く、葉色が4.0以上）のほ場では、1回目は量を減らし、2回目は基準量を施用して下さい。

＊ 出穂日(予想)は、今後の気象条件等で前後する可能性があります。

幼穂長の確認方法

ほ場内の平均的な成育の株を選び、一番葉が長い茎を取って、根元を切りましょう。



能登北部営農推進協議会
公式LINEアカウント開設！

営農情報を発信していきますので
QRコードを読み込んで友だち登録をお願いします！

